



投資環境

2026年4月15日

最近の株式市場の動向と今後の展望

中東の紛争を受けて、株式市場は右往左往する展開が続いています。ここでは、最近の株式市場の動向を整理したうえで、今後の注目点をまとめたいと思います。

▣ 業績は改善する見込みも、割高感が意識され上値の重い動きに

最近の日米の株価は、企業業績の拡大が期待されるなか、中東の紛争開始前と比較して低い水準で推移しています(図表1)。まず、今後の企業業績を示す予想1株当たり利益(EPS)を確認すると、日米ともに拡大することが見込まれています(図表2)。とくに、半導体株指数の予想EPSは、人工知能(AI)需要拡大が追い風となり、大きく拡大することが見込まれています(図表3)。業績見通しは、2月末に中東の紛争が始まってからも改善傾向が続いており、足元の株式市場では、中東の紛争の影響が企業業績に与える影響は限定的であるとの見方が有力になっているとみられます。

他方、株価の割高、割安感を示す株価収益率(PER、株価÷1株あたりの純利益)は、中東の紛争開始後、低下しています(図表4、5)。紛争を受けて投資家心理が悪化したことなどが背景にあるとみられます。

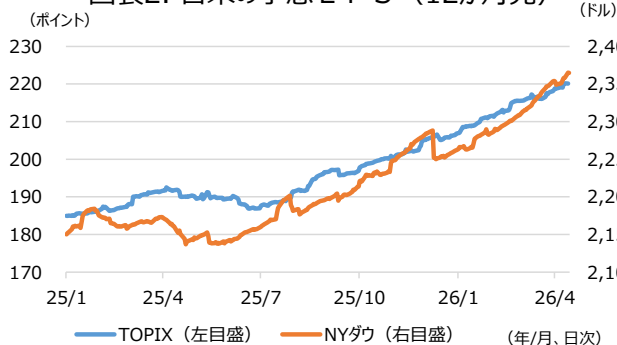
つまり、足元の株価が軟調なのは、企業業績拡大による押し上げ効果よりも、中東の紛争に伴う割高感の修正(PERの低下)が上回っているためです。言い換えれば、業績が崩れたわけではなく、膨らみすぎた期待が正常な水準に戻るプロセスにあると捉えることもできます。

図表1. 日米の株価



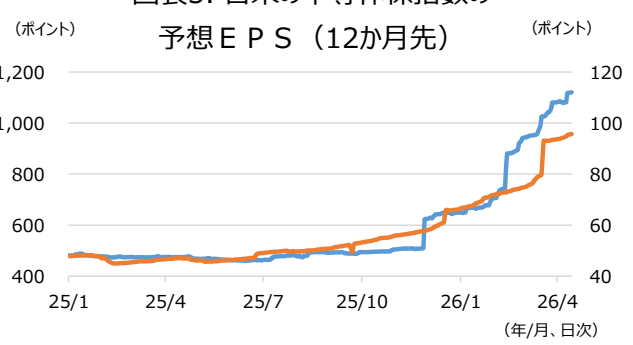
(注) データは26年初～26年4月14日まで
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

図表2. 日米の予想EPS(12か月先)



(注) データは25年初～26年4月14日まで
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

図表3. 日米の半導体株指数の



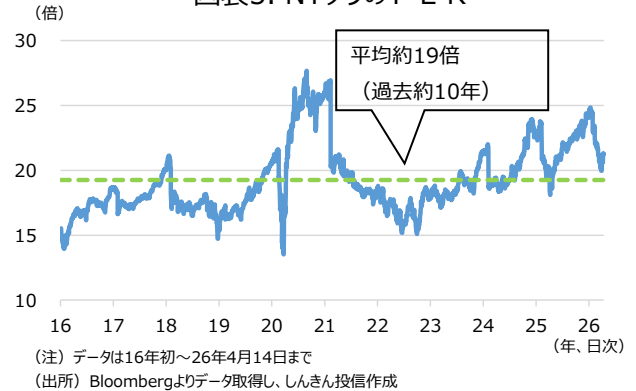
(注) データは25年初～26年4月14日まで
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



図表4. 日経平均株価の P E R



図表5. NYダウの P E R



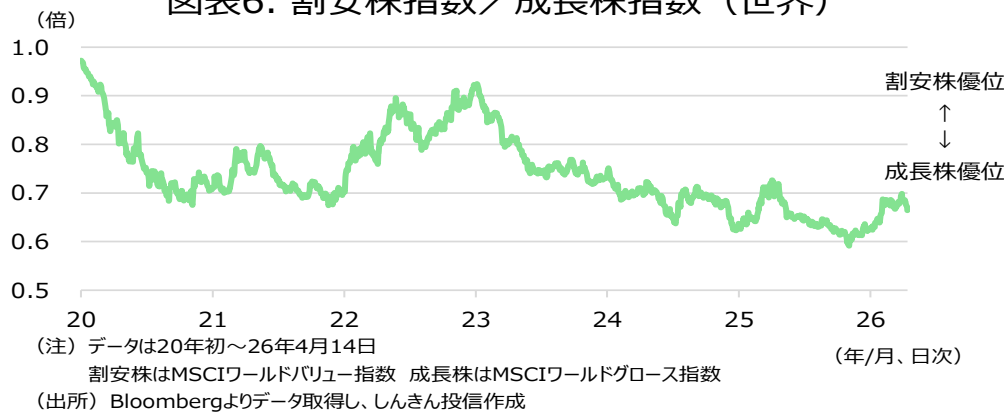
▣ 割安株が相対的に優位な展開 日本株は年初来では堅調

次に、銘柄の特性や地域ごとの株式市場の動向を確認したいと思います。

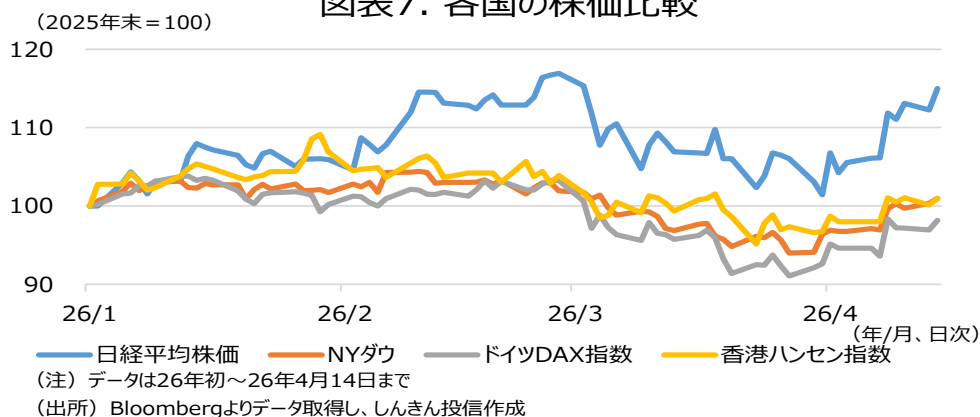
まず、割安株と成長株を比較すると、2026年は割安株が相対的に優位な展開となっています(図表6)。ここ数年、成長株が優位な展開が続いてきましたが、米国の主要ハイテク企業などの成長株の割高感が意識された一方、割安に放置されてきた銘柄に改めて注目が集まり、今年は割安株が優位となっています。

また、国ごとの動向を比較すると、日本株が相対的に堅調な動きとなっています(図表7)。3月に大きく調整する場面がありましたが、高市政権の経済政策への期待などが追い風となり、年初来では10%以上の上昇率となっています。

図表6. 割安株指数／成長株指数 (世界)



図表7. 各国の株価比較





しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

□ 年後半にかけては、大型上場に注目

今後の株式市場は、緊迫する中東情勢や1-3月期の決算発表が目先の焦点となりそうですが、年後半にかけては、米国企業の大型上場が注目されます。米国では、年内に宇宙開発などを手掛けるスペースXのほか、AI開発を手掛けるオープンAIやアンソロピックの上場が予定されています。イーロンマスク氏が運営するスペースXの上場時の時価総額は1.75兆ドル程度が見込まれており、同氏が運営するテスラの時価総額を上回る可能性があります。また、ブルームバーグによると、オープンAIは約8,000億ドル、アンソロピックは約4,000億ドルの企業価値とされていますが、AIへの期待の強さを考えると、これらの企業の上場時の時価総額はさらに拡大する可能性があります。

時価総額ランキング上位2銘柄であるエヌビディアとアップルの時価総額の合計は日本のTOPIX全体を超えるなど、米国の主要銘柄は巨大化しています。一方で、マグニフィセント7と言われる時価総額ランキングの上位を占める企業の最近の株価は上値が重い状況が続いており、米国株式市場全体の重しとなっています(図表8)。

こうしたなか、前述したスペースXをはじめとする次世代の主要級企業の登場は、改めて米国市場の魅力を際立たせ、相場全体を押し上げる強力な起爆剤となる可能性があります。また、米国市場のみならず、これら新興主要銘柄の株価動向は、日本をはじめ各国の株式市場に大きな影響を及ぼすことが予想されます。大型上場を受けて米国市場が活性化するかどうかは、年後半の世界の株式市場の動向を左右する可能性があります。

図表8. マグニフィセント7指数



(参考) 世界時価総額ランキング (2026年3月末)

順位	企業名	時価総額 (米ドル)	国名
1	エヌビディア	4.2	米国
2	アップル	3.7	米国
3	アルファベット	3.5	米国
4	マイクロソフト	2.7	米国
5	アマゾン	2.2	米国
6	サウジアラムコ	1.8	サウジアラビア
7	ブロードコム	1.5	米国
8	メタ	1.4	米国
9	TSMC	1.4	台湾
10	テスラ	1.4	米国
TOPIX (合計時価総額)		7.4	日本

(注) TOPIXの時価総額は、1米ドル=160円で計算

(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

(ストラテジスト 澤村一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号

Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人資産運用業協会

〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www. skam. co. jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。